



H25年度畑かん営農講演会が開催されました

平成25年11月25日、霞ヶ浦農業用水管理センターにおいてH25年度畑かん営農講演会が開催され、約150名の農業関係者が出席しました。この講演会は、霞ヶ浦農業用水を利用した畑地かんがい営農の理解と認識を深め、安定した農業経営の確立を図るとともに、霞ヶ浦用水事業の更なる意識の高揚に努め、茨城農業改革に寄与することを目的として、霞ヶ浦農業用水推進協議会が開催しています。

講演に先立ち、霞ヶ浦農業用水推進協議会の稲葉会長（下妻市長）及び県西農林事務所 羽部所長が、畑かん推進の必要性についてそれぞれあいさつをしました。

その後、鯉淵学園農業栄養専門学校の小川教授を講師に迎え、環境問題と農業のかかわりについて講演をしていただきました。主な講演内容は以下のとおりです。

- ・農業における環境問題は、1960年代は重金属汚染、残留農薬等圃場規模だったものが、1980年代には陸水の富栄養化や家畜ふん尿等のような地域規模のものになり、2000年代には砂漠化、温暖化ガス、酸性雨等地球規模にまで拡大している。
- ・環境を保全するために、化学肥料の削減等を行っていく必要がある。
- ・地域輪作（同一圃場において同一人物が品目を変えて栽培するのではなく、ある品目を栽培する人物が、一定期間ごとに圃場を変えながら栽培する方法）によって連作障害が軽減でき、低コストな栽培ができる。

